

令和2年度
第1回木更津市史編集委員会

開催日時 令和2年7月10日（金）～
同年7月27日（月）
開催方法 書面会議

1. 書面による編集委員会の開催について

2. 委員長あいさつ

3. 教育長あいさつ

4. 新委員の任命について

5. 議題

議題1 『木更津市史』の刊行計画の見直しについて

議題2 『木更津市史』本編の刊行の方法及び発行部数について

(1) 『木更津市史』の刊行の方法について

(2) 『木更津市史』の発行部数について

6. 報告事項

令和2年度第1回木更津市史編集委員会の開催について

委員の皆様には、日頃より木更津市史編さんにご協力いただき、ありがとうございます。

この度の木更津市史編集委員会は、新型コロナウイルス（COVIT-19）感染拡大防止のため、事務局の申し出により書面協議としました。

緊急事態宣言も解除され、漸く都道府県を跨いだ活動が出来るようになってまいりましたが、WHOの報告によれば、感染者数は全世界で1000万人を超え、死者数も50万人に達する勢いで猛威をふるい、未だに世界的流行＝パンデミックな状況になっております。

歴史を紐解けば、大正7（1918）年から10（1921）年にかけて大流行した人類史上最悪の感染症の一つとされる「スペイン風邪（スペインインフルエンザ）」では、日本国内だけでも罹患者数は2380万人超、死者数は38万人超とされております。

こうしたコロナ禍の中で、市史編さんに係る活動も大きく制限され、刊行計画の見直しも余儀なくされる状況になっておりますが、私たちが出来ることを一つ一つ考え、市史編さんを進めていきたいと思っております。

今回は、事務局から提出された二つの議題についてご協議いただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

令和2年7月10日
木更津市史編集委員会
委員長 杉山 林継

教育長の高澤でございます。

木更津市史編集委員会委員の皆様には、本市教育行政に日々ご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

また、昨年度は、『木更津市史研究』第3号、『木更津市史公開講座記録集』平成30年度版、『木更津市史編さんだより』第4号を刊行することができました。刊行に際しては、委員の方々にもご執筆いただいております、この場を借りてお礼申し上げます。

これまで、委員としてご尽力いただいた石井宏典委員に代わり、今年度から篠田貞明委員に加わっていただきました。これまでのご経験を活かしてご助力いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

さて、今年度第1回目の木更津市史編集委員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による協議とさせていただいたところでございます。緊急事態宣言が解除され、本市においても6月から段階を踏みながら漸く学校を再開し、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。また、公民館や図書館などの公共施設の利用についても、制限しながらではありますが再開しております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の第二波、第三波も予断を許さない状況ではありますので、感染リスク対策を十分に考慮しながら木更津市史編集委員会を運営してまいり所存でございます。ご理解の程よろしくお願いいたします。

なお、この度は二つの議案を用意しております。一つは『木更津市史』刊行計画の見直しについて、もう一つは『木更津市史』の刊行方法についてでございます。いずれも、新型コロナウイルス感染症の影響により、「木更津市史編集基本構想及び基本方針」の見直しを諮るものでございますので、審議の程よろしくお願いいたします。

委員の皆様には、それぞれお仕事をもちながら、また、新型コロナ対策に留意しながら、例年以上に大変なご苦勞をおかけしておりますが、引き続きお力添えを賜りますよう、切にお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

令和2年7月10日
木更津市教育委員会
教育長 高澤 茂夫

新委員の任命について

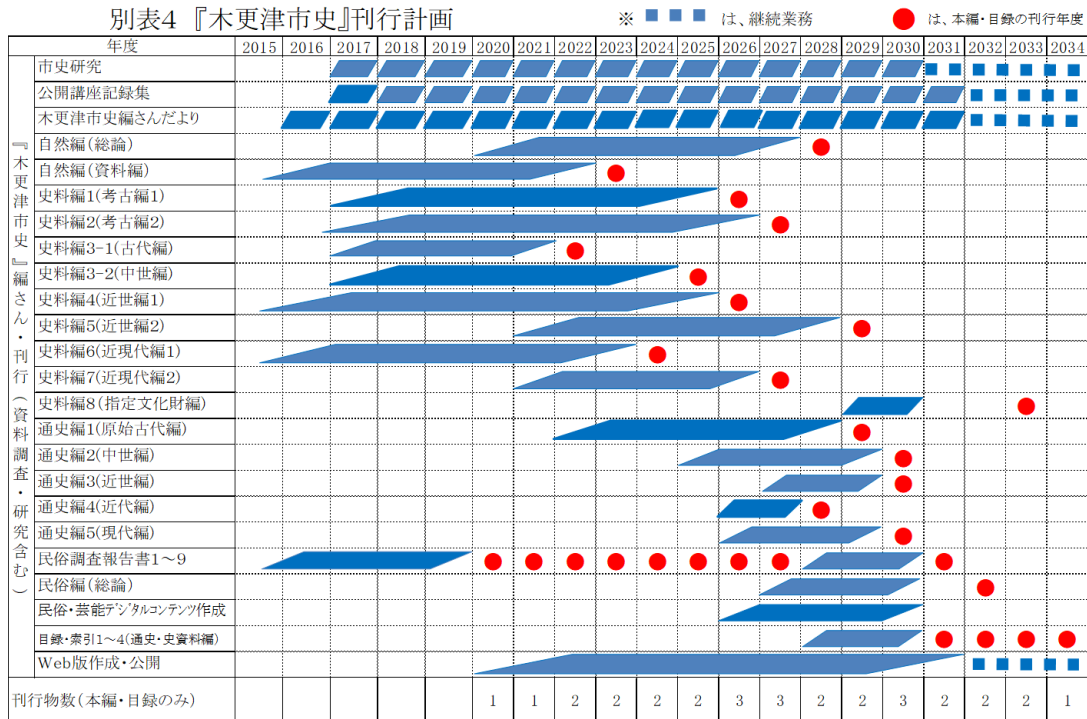
令和2年4月1日の定期人事異動により、石井宏典委員に代わり、篠田貞明委員が任命されました。期間は、令和2年4月1日から令和3年6月30日です。

議 題

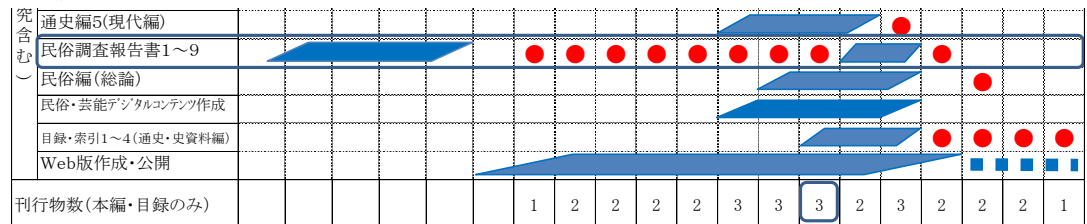
議題1 『木更津市史』刊行計画の見直しについて

今年度から『木更津市史』本編として編集刊行予定の『民俗調査報告書（木更津地区）』1は、新型コロナウイルス感染症の影響により、民俗部会による聞き取り調査が実施できないため、令和3年度以降に刊行を見直すもの。

《変更前》



《変更後》



議題2 『木更津市史』本編の刊行の方法及び発行部数について

本編の刊行方法は、木更津市史編集基本構想及び基本方針において、冊子印刷（紙媒体）としておりますが、印刷経費を考慮してCDまたはDVD（デジタルコンテンツ）に見直すもの。

民俗部会長から『民俗調査報告書』は、CDまたはDVDで編集・発行の要望を受けています。

《協議理由》

木更津市史編集基本構想及び基本方針（抜粋）

4. 『新版』の内容、構成について

(1) 省略

ア～エ. 省略

(2) その他の刊行物及びデジタルコンテンツ等を活用したものを以下のような内容で編集します。

ア. 省略

イ. デジタルコンテンツ等の作成は民俗編で3編(国の記録選択無形民俗文化財「中島の梵天立て」千葉県指定文化財「木更津ばやし」木更津市指定無形民俗文化財「桜井の獅子舞と市内の獅子神楽」)、自然編で3編(「大地・気候」「植物」「動物」)とします。

ただし、市史編集委員会においてデジタルコンテンツ等の作成の対象を追加する場合は、別に協議します。

ウ. エ. 省略

(3) 本編等の発行部数、有償、無償の別及び価格等については、発行の都度、別に定めます。

報告事項

- 1 木更津市史編集部会の活動状況(平成31年4月～令和元年12月) ※7～19頁参照
令和2年3月中旬から5月までの期間、市史編さんに係る屋外や博物館・図書館等施設での調査・研究について自粛要請しました。
- 2 令和2年3月20日(祝日)開催予定であった木更津市史編さん事業公開講座「鎌倉～戦国時代の木更津」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。
- 3 令和元年度刊行物の発行実績及び令和2年度発行予定

令和元年度実績

『木更津市史編さんだより』第4号(令和元年11月11日発行)

『木更津市史研究』第3号(令和2年3月27日発行)

『木更津市史編さん事業公開講座記録集』平成30年度版(令和2年3月31日発行)

令和2年度予定

『木更津市史編さんだより』第5号(令和2年11月1日予定)

『木更津市史研究』第4号(令和3年3月末予定)

木更津市史編集委員会

実施日程	内 容
平成31年度 第1回木更津市史編集委員会(7月19日)	議題 委員長、副委員長の選出について 木更津市史編さん事業におけるデジタルアーカイブ化及び公開事業の実施について
第2回木更津市史編集委員会	中止
令和2年度 第1回木更津市史編集委員会(書面会議)	議題1 『木更津市史』の刊行計画の見直しについて 議題2 『木更津市史』本編の刊行の方法及び発行部数について (1) 『木更津市史』の刊行の方法について (2) 『木更津市史』の発行部数について

第1回木更津市史編集委員会 出席者名簿

開催日時（協議期間）：令和2年7月10日(金)～7月27日(月)

会 場：（書面会議）

	氏名	役職	住所等	出欠状況
1	すぎやま しげつぐ 梶山 林継	委員長	市外	出席
2	なりた あつひこ 成田 篤彦	副委員長	市内	出席
3	いしわだ ひでゆき 石和田 秀幸	委員	市外	出席
4	いけだ しのぶ 池田 忍	委員	市外	出席
5	かわと たかし 川戸 貴史	委員	市外	出席
6	じつかた ゆうすけ 實形 裕介	委員	市内	出席
7	しまだて りこ 島立 理子	委員	市外	出席
8	たにはた みほ 谷畑 美帆	委員	市内	出席
9	ほりきり よしひこ 堀切 由彦	委員	郷土博物館金のすず館長	出席
10	しのだ さだあき 篠田 貞明	委員	企画部次長	出席

(敬称略・順不同)

出席者：10名

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部会名	考古部会	部会長名	加藤修司
-----	------	------	------

<p>平成 31 年 3 月から 令和元年 12 月までの 実施内容・進捗状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、史料編について章立てを再検討した。考古編 1 について冒頭に「総説」を設定し、各地域ごとに遺跡の全体的な概要を記載することとした。 2、このため旧石器時代が第 1 章となり、縄文、弥生・・・と時代が下がり近世以降を第 7 章とし、石造物を第 8 章として加え、谷畑委員分（人骨鑑定関係）の掲載場所は今後の協議とする。 3、令和元年 8 月考古部会全体会議開催、「総説」の記載内容について詳細に検討した結果、「3 水系（小櫃川、矢那川、烏田川）ごとに地域分け」し、①遺跡の位置②県遺跡地図番号③含まれる時代④詳細記載されているページ⑤発掘調査歴の概要⑥関連する文献、について記載することとした。 4、「総説」は考古部会長（加藤）が担当することとし、現在執筆中である。 5、第 1 章以降で詳細記載する遺跡の基準を以下により設定し、今後の考古部会全体会議で了承を得る予定。 <p>①木更津市の特徴を考古学的に理解する上で重要な資料が検出出土した遺跡。</p> <p>② 史跡等に指定される等、学史上重要と認められている遺跡。</p> <p>③「木更津市史 通史編 考古編」を理解する上で必要と認められる遺跡。</p> <p>6 令和元年 12 月現在、上記に基づき、各時代担当者は第 1 章以降の各時代の原稿執筆の進捗状況は</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 旧石器時代＝下野洞遺跡、小谷遺跡ほか執筆中 ② 縄文時代＝藪台 I 遺跡作成、台木 A 遺跡スキャン等作業中 ③ 弥生時代＝請西遺跡群ほか執筆中 ④ 古墳時代 （重要古墳）＝稲荷森古墳ほか執筆中 （古墳）＝未着手 （集落）＝請西遺跡群ほか資料収集、原稿執筆中 ⑤ 奈良平安時代＝令和元年 12 月より潮見作業所他で報告書確認、資料収集等開始し、挿図のデジタル化を除き数遺跡の原稿終了。 ⑥ 中世＝真里谷城ほか資料収集及び執筆中、戦後区画前の字切図作成（1/10,000）3 枚、中近世遺跡発掘調査概要一覧表の作成、渡船場、市場、塚、鍛冶遺跡等の踏査・記録中 ⑦ 石造物 （中世）＝東泉寺五輪塔ほか執筆中 （近世）＝来迎寺五輪塔ほか執筆中 資料調査＝未着手 <p>7、中世以降の「地域」区分については「3 水系」にとらわれない、各時</p>
---	--

	<p>代背景に即した基準とした。</p> <p>8、令和元年12月より「古代」の担当として佐久間豊氏が加わり、奈良・平安時代の集落遺跡を中心に資料の収集、分析を開始した。なお、「墨書土器」の集成も並行して実施している（解説等は古代部会）。</p> <p>9、考古編の基本資料となる文献の「遺跡発掘調査報告書」をすべて網羅するために、考古部会長が中心となり、原則的に潮見作業所において詳細な「文献リスト」の作成を継続している。</p> <p>10、潮見作業所で欠落している文献については他機関より借用等実施している。</p> <p>11、＜谷畑委員分＞</p> <p>月1回（午前・午後各3時間ずつ）で潮見整理作業室にて作業を実施している。観察対象としている資料は、諏訪谷横穴墓出土人骨（古墳時代）である。報告書記載の番号と人骨に付けられている番号が異なるため、番号の確認をしながら、各横穴から出土している個体数を今年度中に算出する予定である。今年度は本遺跡出土人骨の概要をつかうための基礎作業を実施中である（人骨のクリーニング等）。</p>
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<p>1、考古部会の執筆内容は既存の報告書からの転載が主であるため、画像、写真等のデジタル作業が最も技術と時間を要する状況となっている。特に厚い報告書のスキャニングは困難であり、可能であれば事務局にて「ブックスキャナ」の設置をお願いしたい。</p> <p>2、石造物の現地調査において、一部の地主から拒否されるなどトラブルが発生している。事務局にて仲介の調整をお願いしたい。</p> <p>3、＜谷畑委員分＞</p> <p>諏訪谷横穴墓遺跡からは中世に相当する（北宋銭を伴う）人骨も出土（壮年男性、身長約159cm）しており、貴重である（中世人骨は一部の地域でしか出土しておらず、数が少ない）。正確な年代等を提示するには年代測定等の作業も今後必要となってくる。また、未成人骨も伴っており、成人個体との血縁関係等も今後みていく必要があると考えている。</p>
<p>令和2年1～3月及び令和2年度の活動計画</p>	<p>1、令和2年2月に全体会議を開催予定。進捗状況の報告と新会員の紹介等。</p> <p>2、令和2年度（4月以降）は各担当が原稿執筆、デジタルデータ作成等継続する。</p> <p>3、必要に応じて遺物等の再実測、再撮影、現地調査等継続して実施する。</p> <p>4、＜谷畑委員分＞</p> <p>ひきつづき、クリーニング等の基礎作業を実施し、性別・年齢等の鑑定を進めていく。また、作業日数を今年度中に10日～15日ほど確保（予算等に相談が必要）し、市史研究に掲載できるように来年度または再来年度中に原稿をまとめられればと考えている。</p> <p>4、令和2年8月に第1回の考古部会全体会議を開催予定。</p> <p>5、令和3年2月に第2回の考古部会全体会議を開催予定。</p>

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部会名	古 代	部会長名	河 名 勉
<p>平成 31 年 3 月から 令和元年 12 月までの 実施内容・進捗状況</p>	<p>平成 31 年 3 月 24 日 古代部会第 22 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『東南院文書』題名未詳文書連署、『日本書紀』持統 4 年 9 月条、 『続日本紀』和銅元年 3 月条等 ・頭注案（延暦 15～斉衡 3）と資料作成について <p>4 月 21 日 古代部会第 23 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『延喜式』御服条・新嘗御服条・調庸雑物条等 『続日本紀』大宝元年 6 月条・和銅 6 年 5 月条等 『政事要略』上総前司紀貞扶について <p>令和元年 6 月 2 日 古代部会第 24 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『尊卑分脈』・『系図纂要』藤原利人等 『続日本紀』和銅 7 年 2 月条・靈龜元年 5 月条等 <p>6 月 30 日 古代部会第 25 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『延喜式』望陀布・諸国年料雑物等、『続日本紀』靈龜 2 年 5 月条・ 『万葉集』東細布等 奈良県朝護孫子寺銅鉢銘について <p>8 月 4 日 古代部会第 26 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『延喜式』『和名類聚抄』『拾芥抄』上総国 11 郡等 『令集解』賦役令、『続日本紀』養老 2 年 5 月条等 『貞信公記』・『日本紀略』天慶 3 年正月条等 『類聚三代格』国分寺事、『公卿補任』紀広庭等 <p>9 月 8 日 古代部会第 27 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『延喜式』損益条、『拾芥抄』諸国参期等 『続日本紀』養老 3 年 7 月条・神龜元年 2 月条等 <p>10 月 5 日 古代部会第 28 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『延喜式』望陀布の規格・中男作物等 『続日本紀』神龜 4 年 10 月条・天平 15 年 8 月条等 <p>11 月 9 日 古代部会第 29 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『和名類聚抄』望陀布、『二中歴』不堪国、『北山抄』不堪国、『延喜式』位祿の価直等 『続日本紀』天平 5 年 10 月条・天平 8 年 5 月条等 <p>12 月 15 日 古代部会第 30 回</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・『木更津市史史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『延喜式』 駅馬の死損・上総国からの運賃等 『続日本紀』 天平14年正月条・天平15年10月条等 ・史料の掲載方法について（将門記等）
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<p>・『木更津市史 史料編 古代』（仮称）の「原稿作成における諸注意」を、現在までの入稿原稿の作成作業を踏まえて、作成する必要がある。さらに作成作業の進行に伴い、追加し、改訂していく必要がある。その内容は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 『続日本紀』・『大日本古文書』など各史料の採録基準 ② 頭注欄に入る要旨の作成について ③ 史料欄に入る本文の作成について ④ 解説欄に入る解説の作成について ⑤ これらを踏まえて、凡例案を作成する
<p>令和2年1～3月及び令和2年度の活動計画</p>	<p>古代史料編の活動計画案は、次のとおりである。</p> <p>1年目（平成29年度） 採録史料の選択作業</p> <p>2年目（平成30年度）～5年目（令和3年度） 入校原稿の作成作業（採録史料を原史料から作成し、内容を検討し、採録範囲と頭注の作成）。「史料」の解題作成。</p> <p>6年目（令和4年度） 校正作業。</p> <p>令和2年1～3月は、入稿原稿の作成作業の2か年目となる平成31（令和元）年度分を継続して進める予定である。</p> <p>令和2年度は、入稿原稿の作成作業の3年目となる。また、「資料カード」が用意されたので、平成30年度・平成31（令和元）年度分も平行して作成作業を進める。</p>

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部会名	中世史部会	部会長名	滝川 恒昭
<p>平成 31 年 3 月から 令和元年 12 月までの 実施内容・進捗状況</p>	<p>昨年までは年間 6 回程度の部会を開催し、その中で史料の収集や編纂の方針を固め、それに基づく部会員全体による調査や、木更津市内の中世関係遺跡や文書の調査を実施してきた。本年度からは部会の決定・方針に基づき、それぞれの役割分担で個々による調査や検討を実施することにし、その成果を集約していくこととした。また県外調査については、役割り分担に沿って、複数の部会員による調査も想定された。ただし、上総武田氏の関係資料調査地として挙げた甲府市内の調査については、先方の都合もあって調査を実施できなかった。</p> <p>以下個人による調査の主な場所・資料の概略を示す。</p> <p>千葉県内</p> <p>3・20他 千葉県立図書館・千葉市郷土博物館 県立図書館郷土資料室および千葉市郷土博物館が長年集積してきた郷土史関係の資料および研究文献のなかから、木更津中世関係の文献・資料の検索作業（以下同館における作業内容は同一）</p> <p>4・5/7. 5他 千葉県文書館 千葉県史編さん資料の調査 （千葉県史編さんの過程で、集積された本県中世史関係の資料のなかから、木更津関係資料の検索。以下同館における作業内容は同一）</p> <p>5・18他 千葉市立中央図書館 （「大日本史料」「戦国遺文武田氏編」等の刊本の検索。以下同館における作業内容は同一）</p> <p>5. 26/6/8 館山市立博物館 （館山市立博物館が所蔵する中世安房、および里見氏関係資料の調査。特に里見氏文書については、同館が日本最大の収集施設であるため、木更津市史においても重点調査地となる）</p> <p>以下12月までは、おおむね同一作業。</p> <p>その他近県調査地としては、</p> <p>7. 8 内閣文庫関係資料検索</p> <p>その後も藤沢市文書館 慶応大学図書館 東京大学史料編纂所等で継続的に調査を実施</p> <p>現在までの主な成果</p> <p>「木更津中世関係資料仮目録」約 200 点のリスト作成中 「上総武田氏関係資料かり目録」を作成中</p>		
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他部会との連携をどうはかるか。 ・調査における諸問題（交渉・機材・人員・体制等） ・現在進行中の他の自治体史との連携をどう図るか。 ・県外調査の実施 		

<p>令和2年1～3月及び令和2年度の活動計画</p>	<p>2月 国文学研究資料館調査 2月 県外調査予定 本年と同じく、部会員それぞれ分担計画による調査。 それに基づく資料リストの作成に努める。 令和2年度では、県外では東海地方の資料所蔵機関・個人の調査を計画している。またこれまで実施できなかった県外調査も検討中。</p>
-----------------------------	--

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部会名	近世部会	部会長名	小関 悠一郎
平成 31 年 3 月から令和元年 12 月までの実施内容・進捗状況	<p>期間中、次の諸家・機関等において、現地史料調査を実施した。 郷土博物館、茅野・久津間・大寺・井尻・高柳・下郡・畑沢地区家文書、市立図書館 鈴木三郎家文書、同 至徳堂関係文書、同 鈴木長三郎家文書、同 重城家文書</p> <p>上記の他、木更津・貝渕・井尻等において、訪問・聞き取り調査を実施し、史料所在の確認を行った。</p> <p>また、上記のうち、大寺・井尻・下郡地区の一部の家文書について、史料の撮影・史料目録の作成を行った。</p> <p>以上の現地調査・史料整理作業の他、これまで調査した諸家文書（下記）について、重要史料の確認・抽出作業を行った。 木更津・小浜・有吉・茅野・鎌足地区、至徳堂関係資料、鈴木三郎家文書</p> <p>このうち、小浜地区家文書・有吉区有文書について、史料翻刻作業を開始し、後者については作業を完了した。なお、作業にあたっては、4名の方にボランティアでの翻刻を依頼し、今後も協力を得られる見込みである。</p> <p>以上は、期間中に2回実施した部会打合せにおいて、部会員で情報を共有し、計画を立てて行ったものである。</p> <p>なお、中央大学・一橋大学と共同で行ってきた市立図書館の和本調査の成果を、5月11日（土）に市立図書館を会場に開催された「書物・出版と社会変容」研究会にて発表した。</p>		
これまでの取組に係る課題点・懸案事項	<p>地区によって把握できている史料の量にばらつきがある。</p> <p>部会間の連絡および史料所蔵者等との諸調整、また、調査・編集に必要な諸作業を円滑化するため、専任の嘱託職員等が必要と考える。</p> <p>収集資料の保存について、市としての本格的検討が必要である。</p>		
令和2年1～3月及び令和2年度の活動計画	<p>史料収集量が十分ではない木更津・波岡・清川・真舟の各地区に重点を置き、市内の旧家等の史料所在確認調査を実施する。現段階で具体的には八剣神社・農協(木更津)、万石等を想定。</p> <p>また、千葉県文書館収蔵史料、袖ヶ浦市郷土博物館収蔵佐久間家文書、慶應義塾大学所蔵史料、静嘉堂文庫所蔵典籍等について、史料閲覧・撮影調査を実施する。</p> <p>これまで調査・整理した諸家文書について、重要史料の確認・抽出作業を行い、優先度の高い史料から翻刻作業を実施する。収集文書群の解題作成等、史料編纂に向けた作業にも着手する。</p>		

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	近現代部会	部 会 長 名	池田 順
-------	-------	---------	------

<p>平成 31 年 3 月から 令和元年 12 月までの 実施内容・進捗状況</p>	<p>(1) 機関・団体等調査</p> <p>①千葉県文書館 新聞の木更津市域に関する記事の選定・撮影等を行った(4割程度終了)。</p> <p>②金のすず 中尾区有文書の近現代関係資料の撮影を行った(終了)。 青柳家文書の近現代関係資料の撮影を行った(終了)</p> <p>③木更津市立図書館 鈴木三郎家文書の近現代関係資料の撮影を行った(終了)。</p> <p>④旧畑沢土地区画整理組合 組合資料の袋詰め・目録作成を行った(7割程度終了)。</p> <p>(2) 家文書調査</p> <p>①下郡地区家文書 資料の袋詰め・目録作成・撮影等を行った(7割程度終了)。</p> <p>②新田地区商店資料 資料の袋詰め・目録作成・撮影等を行った(終了)。</p> <p>③矢那地区家文書 資料の袋詰め・目録作成・撮影等を行った(9割程度終了)。</p> <p>④菱田忠義氏資料(郷土博物館金のすず) 資料の袋詰め・目録作成・撮影等を行った(2割程度終了)。</p> <p>⑤万石地区家文書 近現代関係資料の撮影を行った(終了)。</p> <p>⑥井尻地区家文書 近現代関係資料の撮影を行った(終了)。</p> <p>⑦大寺地区家文書 近現代関係資料の撮影を行った(4割程度)。</p> <p>⑧岩根地区家文書 資料(日記)の撮影を行った(2割程度)。</p> <p>(3) フィールドワーク・建物調査 旧畑沢土地区画整理組合資料の所蔵状況を確認し、資料を借用して旧保健相談センターへ搬入する。 下郡、高柳の調査を行い、資料を借用して旧保健相談センターへ搬入する。 金田漁協・江川漁協・中里漁協・久津間漁協・木更津漁協の資料所蔵状況の確認を行う。 万石地区などの建物調査を実施する。</p>
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<p>旧木更津町に関する資料調査が不十分であるため、今後、木更津市役所文書の選定・撮影等が重要課題となる。その作業を効率的に進めるため、旧千葉県史料研究財団がマイクロ撮影した木更津市役所文書の複製資料を、千葉県文書館から借用できるよう至急文書館と交渉を行ってもらいた</p>

	<p>い。</p> <p>漁業関係資料の収集も不十分である。市域の漁協に所蔵されている資料の閲覧・調査を今後の課題としたい。</p>
<p>令和2年1～3月及び令和2年度の活動計画</p>	<p>①千葉県文書館で、新聞の木更津市域に関する記事の選定・撮影等を行う。</p> <p>②下郡地区家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。</p> <p>③菱田忠義氏資料の袋詰め・目録作成・撮影を行う。</p> <p>④矢那地区家文書の撮影を行う。</p> <p>⑤畑沢土地区画整理組合資料の袋詰め・目録作成・撮影を行う。</p> <p>⑥木更津市役所文書の選定・撮影などを行う。</p> <p>⑦茅野地区家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。</p> <p>⑧万石地区家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。</p> <p>⑨漁業関係資料（漁協所蔵資料）の閲覧・調査、目録作成・撮影などを行う。</p> <p>⑩木更津保健所（現君津健康福祉センター）の調査を行う。</p> <p>⑪聞き取り調査を続行する。</p> <p>⑫資料調査のためのフィールドワークを続行する。</p> <p>⑬歴史的建造物の調査を続行する。</p>

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部会名	民俗部会	部会長名	和田 健
平成 31 年 3 月から令和元年 12 月までの実施内容・進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『民俗調査報告書 木更津地区の民俗』（仮）の構成に関わる検討 <ul style="list-style-type: none"> ・全体構成の確認およびたたき台を基にした加筆箇所の確認（水運に関わる記述の必要性および地名に関わる記述の必要性を確認） ・執筆担当者の調整 2. 伝説に関わる調査の進捗 <p>入江委員により、オトタチバナヒメに関わる伝説の聞き取りおよび様々な伝説、家伝に関わる伝承などを聞き取り</p> 		
これまでの取組に係る課題点・懸案事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年中行事、人生儀礼といった基本的な調査事項が未着手。 2. 生業に関わる調査項目の検討を早急にしないといけない。特に交通、交易に関しては未着手。 3. 十分な分担体制をとりながら、執筆に向けての体制をとらないといけないが、部会員同士の情報共有を今一度整える必要がある。 		
令和2年1～3月及び令和2年度の活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団調査を行い、まずは年中行事、人生儀礼の基本的な事象の収集を着手する。 2. 生業関係の調査体制については農村と違う町場の特性を生かしたトピックを複数の部会員で検討を行う。 3. 多くの話者が集まる集団調査の機会を事務局に調整いただき、部会員が各担当のテーマに合わせての取材調査を行う。 		

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	自然部会	部 会 長 名	山田 真
-------	------	---------	------

<p>平成 31 年 3 月から 令和元年 12 月までの 実施内容・進捗状況</p>	<p>環境分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査 干潟の底生生物継続調査を実施 ・ 資料調査・データまとめ 木更津市の気象データ、干潟の底生生物調査データまとめほぼ終了 ・ 執筆 盤洲干潟後背湿地のヨシ群落面積の変遷に関する市史研究原稿の執筆は進捗 20%程度 <p>地学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市史・本論の原稿の下書きは、1 割程度 ・ 下総層群上部の木下層、関東ローム層の部分の各説の下書き原稿を作成したが、やや不十分な感あり。 ・ 下総層群上部のテフラの記載（特定できず記載のみ）と写真撮影を行った。 <p>動物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小櫃川河口三角州の陸生動物のデータ収集約 60% 終了 ・ カメムシ及び甲虫類のデータ収集約 50% 終了 ・ 新木更津市の「地形と地区図」の作成 ・ 「木更津市のバッタ目」の種リストと主な種の分布図及び資料集（素案）の原稿執筆 ・ 「木更津市の爬虫類」資料集モデル案の原稿執筆 ・ 本編「木更津市の里山・谷津田の四季」の骨格案（市史編纂だより 4号）の執筆終了 ・ 鳥類；基本調査は 95% 終了した。116 地点を踏査済み。 2019 年 12 月調査分まで調査結果の入力終了。 ・ 魚類；基本調査は 95% 終了した。73 地点を踏査済み。 進展なし。前年度に 2018 年 9 月調査分まで入力終了。 ・ 現地調査場所の一覧表を作成、調査地点の呼称を統一した。 ・ 鳥類のアンケート調査を実施中。（締切りは 2020 年 1 月末日） ・ 成田氏・田村氏の撮影写真の種同定（昆虫・海岸動物）を行い、 2018 年まで撮影分の 2000 枚程度を完了する。 ・ 木更津市立図書館蔵書の文献調査（自然科学の内、動物・植物に係る文献。行政資料の内、環境アセスメント・水質・都市計画・埋蔵文化財に係る文献）を継続中。60%進捗。残りは地学・気象・水文に係る文献など。 ・ 県立中央博での文献調査（房総の昆虫・千葉生物誌・湾岸都市の生態系と人為による環境影響評価など）を月 1 回のペースで 9 月から行った。 遅くとも来年度いっぱいの作業の予定。 ・ 調査データの部門ごと件数確認（トンボ・ハチ・蝶・ガ・淡水動物・哺
---	--

	<p>乳類・ハエ・クモ・甲虫の文献調査・現地調査計で6500件程度) 今後の現地調査での補充の検討をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献に記録されている種データの入力と、その種名(学名・和名)変遷を考慮し是正した(昔と今で名前の違うケース)。 ・現地調査・文献調査の種データの完成まで、種同定問題点の検討、記載順や学名記載の作業などを行う。蝶とトンボは90%、その他は50%進捗。 ・木更津・袖ヶ浦・市原・君津の市立図書館に蔵書されている動物関係図鑑のリストとコメントのデータ化を完了する。ネット情報についても種同定作業で活用した分を記録する。 ・自然編資料集の凡例、動物分野の形式・執筆分野・頁数に関する原案を作成する。 ・アメンボ類(昆虫綱カメムシ目)の現地調査を行い市内の概要をつかむ。来春、注目種の再調査を数度行い完了予定。 ・蚊について予備調査で調査法を検討。5種について記録する。来年度に本調査を予定する。 <p>植物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立中央博物館との植物合同調査 7回、36メッシュの調査を行った。 今回でメッシュ調査は100%終了した。 ・巨樹・巨木調査 9回、179本を調査計測した。 進捗状況:74% 終了 調査済:322本 計画:437本 残り:115本
<p>これまでの取組に係る 課題点・懸案事項</p>	<p>地学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の台風15・19・21号で崩壊した地点(新しい露頭)の情報があれば知りたい。 <p>動物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥類調査では、夜行性鳥類、ねぐらを形成する鳥類、集団繁殖する鳥類の調査をどうするか。 ・魚類調査では、困難場所の調査をどうするか。 畑沢川は川床に降りるのが危険、小櫃川本流は水量が多く危険、足場が悪い。 ・担当分野が広く、同定に関する信頼性の確保が不安である。 ・調査データの部門ごと件数を考慮すると、未調査分野は多く、現地調査追加は必要だが、どの程度で妥協するかを考えるのも現実的である。 <p>植物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巨木調査では、神社・寺院の承諾は概ね取れているが、個人所有が約1/3あり、計測等の許可が得られない場合がある。 <p>全般</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 資料集の目次、執筆分担、頁数の確定 資料集原稿のデジタル部分と印刷部分の区分 資料集及び本編の完成原稿、写真データの保存方法と保存場所と管理者の検討と決定 デジタル情報と紙原稿を含む
<p>令和2年1～3月及び令和2年度の活動計画</p>	<p>環境分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料編に入れるグラフ等の仕上げ、データの作成 過去のヨシ群落の変遷図の作成と市史研究原稿の執筆 木更津市の湧水関連調査 <p>地学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2節 木更津市の地質（木更津市域の大地の成り立ち）の残り部分の下書き。 第3節 木更津市の地史（大地の生い立ち）の下書き。 <p>動物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 木更津市の哺乳類（中間報告：案）の原稿執筆 木更津市のカメムシ目（中間報告：案）の原稿執筆 カメムシ目、甲虫目、バッタ目などの補完調査 小櫃川河口三角州の陸生動物及び海浜昆虫の補完調査 木更津市のバッタ目の資料集案の原稿執筆 木更津市の両生類の資料集案の原稿執筆 鳥類、魚類の補完調査を継続し新たな情報を得る。繰返し調査で精度を高める。 鳥類、魚類の市内記録種を抽出しリストに入力する。 「資料編」のデータ編集と要約執筆を行う。 目録、リスト類、調査地の地図、確認種の分布図を作成する。 鳥類、魚類、及び調査地の環境・景観写真を選定する。写真と目録データの整合をチェックする。 鳥類アンケート調査結果をまとめ、目録データへ入力する 市内で繁殖する鳥類（幼鳥、巣、行動）リストをまとめる。 市史研究第4号への投稿「木更津市の淡水魚」を予定 県立中央図書館及び市立図書館での文献調査の継続、および、文献目録の形式に関する検討（月6回） 小型哺乳類（ネズミ・コウモリ）現地調査（月4回） <p>植物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立中央博物館との植物合同調査 全メッシュの調査が終了した。関係者と連携しながら市史資料の作成にとりかかる。2020/3/23(月) 朝日庁舎で編集等の会議を行う。 太田山など主要な場所の植生資料の作成。 巨樹・巨木調査残り 115本 約7日を必要とする。 1.5日/月行うとして約5ヶ月、5月末に終了予定。 資料集・市史原稿(案)・写真集の作成を調査と並行して行う。